



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学百年史 編纂室ニュース

第14号 2009.3.25

表紙写真解説

仙台空襲前後の空中写真

この二枚の空中写真は、仙台空襲の前後に米軍が撮影したものである。左側が昭和20年(1945)5月25日、右側が昭和22年(1947)10月23日の撮影で、上が北側である。当時、仙台高等工業学校のあった南地区(現電気通信研究所)も含めた(①)。

仙台空襲によって、理科大学時代からの理学部建物(②)がほぼ全焼したほか、工学部化学工学科本館(③)や法文学部にあった木造建物(④)などが焼失した。これら二枚の写真は、東北大学とその周辺市街地の空襲被害の状況を如実に物語っている。

※この写真は国土地理院所蔵の米軍撮影空中写真を加工したものである。

●点描・百年史

航空寮創設時の思い出

東北大学名誉教授 酒井 高男 ————— 2

受贈図書一覧

————— 5

『東北大学百年史』第2巻、第10巻刊行のお知らせ

————— 6

* * *

百年史編纂室日誌抄録

————— 8



昭和20年5月25日

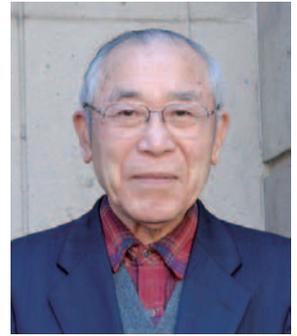


昭和22年10月23日

航空寮創設時の思い出

東北大学名誉教授

酒井 高男



東北帝国大学に航空学科が創設されたのは、昭和14年（1939）4月で、私たちはその第4回生として昭和17年の4月に入学した。

当時の航空学科は創設後日も浅く、工学部長の宮城音五郎教授と、機械工学科から移籍されたばかりの成瀬政男・棚澤泰両教授の他は、前年12月に航空学科を第1回生として卒業したばかりの岩名義文・宮坂五一郎両先生2人の講師だけという学科であり、学生数も、我々新入生32名を加えてもようやく60名程度の小学科であった。

それだけに学科全体の雰囲気は、和気霽々とした家庭そのものであって、師弟の関係も、上級下級の関係も全く垣根なしのそれに近かった。学生の大部分は旧制高校の出身者であり、我々第4回生のとき初めて少数ながら旧高専校の出身者が加わった。これら旧高校、旧高専校出身の学生の多くは、若い日に経験した寮生活の楽しさと、そこでえた共同生活の大切さを懐かしがっていた。

後日知るところによれば、第3回生の中の有志が昭和18年度のはじめ、主任教授の成瀬先生に、「大学生のための寮をつくって下さい」と懇願したという。学生時代に苦学した経験をもつ成瀬先生は、かねてからそのような心積りをしておられたらしく、種々様々に努力された後、北四番丁と二本杉通の交差点の角地で、400坪ほどの真四角な敷地に、かつて宣教師が住んでいた



寮設立当時の成瀬政男先生

という洋風木造二階建の建物を手に入れ、それを学生寮として整備して下さった。これには物置として使える三階の小部屋もあったし、庭も広く、さらに日本間の離れもつけられていた。

こうして寮発足の準備ができたときは、昭和18年の10月で、寮創設を切望していた第3回生の先輩方は、その喜びを味わう時をえずしてその前の9月に卒業していった。

10月に入ると、旧制二高の同窓ということもあり、上記先輩方と親交のあった同級の友谷昌義君とともに私も成瀬先生に呼び出された。そして「高校、高専を卒業し、そこでの寮生活を体験して大学生になった君たちだ。運営はすべて任せるから、大学生にふさわしい寮を創ってみよ」と申しわたさ

れた。

私たち2人は早速クラスの仲間から有志をつのり、更に3人を加え、寮生活の骨格を議するとともに、寮の名前も公募した。それに平行して全航空学科生に呼びかけて、入寮希望者をつのった。時間的には多少のずれはあると思うが、我々3年生5名、2年生5名、1年生7名の合計17名が寮発足時の人数である。

公募した寮の名前は「航空寮」ときまり、門標は宮城音五郎先生に揮毫して頂いたが、宮城先生もこの寮の発足を大変よろこんでおられ、その御期待に応えたいと熱望した。

食事など日常のことは賄い夫婦に頼むことにし、諸経費の実際に基づいて寮費を決め、会計係りは輪番制にした。

寮運営の細則は以後次第に決めていくことにし、まずは“節度・清潔”を旨とし、定時起床、一同集合しての海軍体操、つづいて全館清掃、そして朝食、夕食は定時間内にとるという程度の規則でスタートした。

離れの日本間は、クラス会など全学科のいろいろな集會に利用できたし、時には講師として来学された中島飛行機の技師に泊って頂き、一同そろって現場の話をうかがうという幸いをえた。更に成瀬先生の御配慮によって、他学部の碩学を囲んで講話をうかがうなど、総合大学特有の恩恵に与ることもできた。

成瀬先生の夫人愛子様にもお世話になった。何よりも第一に、5人のお子さまの育ち盛りのときの寮創設は、先生ご夫妻にとって大変な大仕事であったにちがいない。随分後のことになるが、当時のことをうかがった旧寮生に対し、成瀬先生はご結婚のとき「若し着物が欲しいと思った時、その分を、寮を作る方に回す決心をしてくれるか」と聞かれた由。奥様はその頃から心の準備をしておられたのであろう。寮が発足すると、奥様も親身になって寮生の世話を下さった。入院した寮生があれば、病院まで見舞に行かれたし、正月に寮に残っている学生には、お宅に呼んで雑煮をふるまって下さったという。

一方、当時昭和18年といえ、その年の6月に「学徒戦時動員体制確立要綱」が閣議決定されており、やがて学生の徴兵猶予も撤廃されるまでになっていた。このような時局下にある寮生として、我々は如何にあるべきかがよく議論された。時間を t で表わすとき、 $t = t_1$ で彼はよく眠っていた。 $t = t_2$ で彼は机に向い猛勉強をしていた。 $t = t_3$ で彼は農家に出かけていき、勤労奉仕に汗を流していた。このような姿こそが、戦時下学徒のあるべき姿だ、などというこ



航空学科卒業アルバムに寄せられた宮城音五郎先生直筆の書「翔破天涯」(昭和19年)



成瀬先生のご家族と寮生との記念写真（航空寮前にて 昭和19年春）
中央に三女を抱く夫人、その左に長男（後方に次男）、夫人の右に次女、長女、長女の右後方が筆者

とがよく議論された。

食糧事情はきびしさを増す一方であった。休日毎に仙台市近郊の農家に行って農作業を手伝った。その際昼食に頂く白米ご飯が何よりも有難かった。帰りには馬鈴薯など主食代りになるものを分けて頂き、暗い農道を歩いて帰寮した。

物資の欠乏が日増しに加わっていったその頃「物資のないための苦労はまだしれている。豊かな物資に囲まれながら、金の無いため買えない苦痛の方がはるかに勝る」と仰せられた先生の言葉を思い出す。

私たちの卒業は昭和19年9月であるが、当時2年生は勤労働員で工場に行っていて誰もおらず、1年生だけが残ることになった。それから11ヶ月後の敗戦である。そして航空学科と同様、航空寮の名も消え、やがて建物も進駐軍によって接収された。しかもその後失火によって焼失したという。その後、昭和36年に「成瀬寮」なる名前の寮が創設された。これもまた学生を愛してやまない成瀬先生の肝煎りによるものであった（遠藤好英「花より花に蜜をすう—東北大学勸学会成瀬寮始末記—」『東北大学百年史編纂室ニュース』第12号）。

参考文献：谷昌義「航空寮のこと」（『精密工学科創立五十周年に寄せて』1989）

受贈図書一覧 (学外のみ掲載 平成 17 年 8 月 ~ 平成 21 年 2 月)

平成 17 年

- 8月30日 日本大学より『鬢誌 (こうし) 山田顕義とその周辺』創刊号
11月25日 中央大学より『中央大学百年史 資料編』
12月5日 京都大学より『大学文書館だより』

平成 18 年

- 1月11日 拓殖大学より『拓殖大学百年史研究』第17号
3月6日 大学史研究会編集委員会より『大学史研究』第20号・第21号
3月20日 同志社大学より『新島研究』第97号
4月28日 京都大学より『京都大学大学文書館研究紀要』第4号、『京都大学大学文書館だより』第10号
5月8日 大谷大学総合研究所より『真宗総合研究所研究紀要』No.23、『大谷大学総合研究所報』No.47
6月12日 片野達郎名誉教授より『小野寺さんを偲んで—小野寺信夫様追悼文集—』
6月12日 山形大学記念誌発行実行委員会より『山形大学50年史』
6月12日 九州大学より『大学とはなにか 九州大学に学ぶ人々へ』
6月23日 創価大学より『創価教育研究』第5号
8月17日 京都大学より『京都大学における「学徒出陣」調査研究報告書』第1巻・第2巻

平成 19 年

- 1月22日 大阪大学より『百年誌 大阪大学工学部 醸造・醗酵・応用生物工学科』
3月13日 京都大学より『京都大学大学文書館研究紀要』第5号
4月18日 大阪市立大学より『大阪市立大学の101~125年 第2世紀への出発: 1981~2005年』、『大学史資料室ニュース』第11号
4月23日 大阪市立大学より『大阪市立大学の125年《1880~2005》』
4月25日 神奈川大学より『大学アーカイヴズ全国大学史資料協議会被害日本部会会報』No. 36
5月7日 成蹊学園史料館より『成蹊学園 資料集③-成蹊学園年表 (稿本1) 1944 (昭和19) 年以前-』

- 5月7日 創価大学より『創価教育研究』第6号
5月14日 國學院大學校史資料課より『校史』Vol.19
5月21日 法政大学より『法政大学大学資料』第28集、『法政大学大学史編纂室ニュース』Vol.1 No.4
5月28日 京都大学より『学友会関係資料』解説・目録、『京都大学大学文書館だより』第12号
6月4日 桃山学院大学より『桃山学院年史紀要』第26号、『桃山学院の歴史—大学開学50周年に向けて—』
7月30日 近畿大学より『山は動かず—世耕弘一伝—』
10月9日 中央大学より『中央大学百年史編集ニュース』第37号
10月15日 関西大学より『関西大学120年史』
11月30日 愛知大学より『愛知大学史研究』2007年度版創刊号、『愛知大学創成期の群像—写真集—』

平成 20 年

- 3月7日 中央大学より『中央大学史紀要』第13号
3月10日 京都大学より『京都大学大学文書館研究紀要』第6号
4月7日 中央大学より『中央大学史資料集』第20集
4月11日 創価大学より『創価教育』第1号
6月2日 京都大学より『大学所蔵の歴史的公文書の評価・選別についての基礎的研究』(研究代表者 西山伸)
6月16日 京都大学より『「戦後学生運動関係資料」解説・目録』
9月8日 成蹊学園史料館より『成蹊学園史料館年報』2007年度
9月16日 東京農業大学より『榎本武揚と横井時敬 東京農大二人の学祖』
10月27日 愛知大学より『愛知大学史研究』2008年度版第2号
11月10日 慶應義塾大学より『近代日本研究』第25巻
11月25日 全国大学史資料協議会より『創立期大学史資料の特色』研究叢書第9号

『東北大学百年史』第2巻、第10巻刊行のお知らせ

『東北大学百年史』第2巻「通史2」

平成21年1月、『東北大学百年史』第2巻「通史2」が刊行されました。本書は昭和33年から平成19年の創立百周年までの東北大学の沿革について叙述した初めての通史となります。

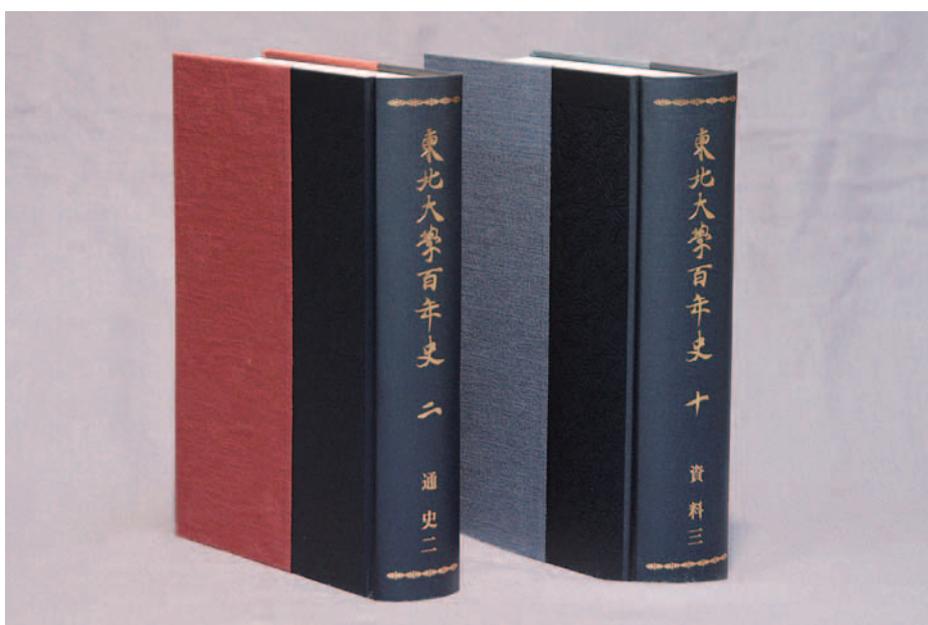
戦後、第二高等学校や宮城師範学校を包括して発足した新制東北大学では、一般教育を担当する教養部や教員養成課程の位置づけが大きな問題となりました。そこに青葉山地区への移転問題が重なり、昭和40年には教員養成課程が宮城教育大学として分離したほか、当時の学長が辞任する「四〇年問題」という混乱が発生しました。

一連の事態に対する反省をふまえ、東北大学では大学改革に関する全学的な検討が進められました。ただし、昭和40年代は大学紛争がピークを迎えていたため、さまざまな困難に直面しました。その後、長期にわたって審議された大学改革は、平成になって教養部の廃止や大学院の重点化として結実し、平成16年には国立大学法人として生まれ変わりました。

本書は、このような激動の半世紀における東北大学の姿を、評議会や各部局教授会の議事録のほか、名誉教授による寄贈資料や学生運動関係資料などを用いて、多様な視点から論述したものです。とくに各種議事録は未公開とされてきたものも多く、大学史研究においても画期的な成果といえます。

本書が大学史や現代史、あるいは東北大学に興味のある方の手にとられることを願うとともに、貴重な資料を提供いただいた関係部局、および執筆いただいた先生方に、この場を借りてあらためてお礼申し上げます。次第です。

(2009年1月刊、773頁)



『東北大学百年史』第10巻「資料3」

このたび『東北大学百年史』第10巻「資料3」が刊行されました。この巻は「一覧・統計」として、創設以来の組織変遷図や総長以下部局長・教員などの一覧表、また教職員数・学生数ほか歳入歳出・土地建物資産などの統計資料からなります。内容は以下の通りです。

第1章 組織

第1節 大学組織の沿革 第2節 講座と研究部門の変遷 第3節 事務組織の変遷

第2章 人事

第1節 主要人事 第2節 教職員数

第3章 研究と教育

第1節 受賞者 第2節 博士学位授与数 第3節 学生数 第4節 国際学術交流協定

第4章 経費と資産

第1節 経費 第2節 土地建物面積

この巻は見やすい、使える統計編を目指して、さまざまな工夫・趣向が凝らされています。その一部をご紹介しますと、第1章では学部研究科・研究所・学内共同教育研究施設はもとより、講座学科目・研究部門・大学や部局の附属施設にいたるまで網羅し、各組織の設置から改編・廃止などについて、その根拠となる法令等を明示しています。また、たとえば学部附属施設から学内共同教育研究施設への移行など改編があった場合でも、掲載頁を示して前後関係を明らかにし、調べやすいものとなっています。学内組織の改編が多い中、重宝することでしょう。また第2章の主要人事では、助教授以上の教員の在任期間を年月日まで明記していますので、思い出深い先生方のいらっしゃった頃の記憶がよみがえるのではないのでしょうか。第4章の土地建物面積では、東北大学の主要キャンパスである片平・星陵・雨宮・川内・青葉山などについて、土地と建物面積が年度ごとに集計されています。大学拡張の様子が、キャンパスの面積という点から追うことができるでしょう。

判型はこれまでの百年史と同じくA5判ですが、版面をいっぱいに使っていますので、図表はもとより統計資料も、より見やすいものとなっています。(2009年3月刊、939頁)

『東北大学百年史』のお求めの場合は、東北大学出版会(TEL 022-214-2777)までお願いします。

明治40年(開学)		昭和34年	
理科大学、理学部、理学研究科			
1 附属観象所 大正11年12月 学内設置(一編)		2 附属地震観測所 昭和27年4月1日 上棟式22日 (2月21日完成)	
3 臨時理化学研究所→(廃止) 大正11年8月19日* 臨時理化学研究所規程 (同日制定)	大正11年12月 学内設置(通史1)		
4 附属臨海実験所 大正13年7月8日 昭和15年127号 (同日公布)			
5 八甲田山植物実験所 昭和4年4月 学内設置 (部局史2)			
6 海洋水産化学研究所 昭和10年4月27日 学内設置		(32頁12へ) 昭和29年3月21日 学内設置	
7 理科大学理化学研究所→(廃止) 昭和16年10月1日 昭和17年理化学研究所規程 (同日制定)	昭和19年 学内設置 (部局史2)		
8 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和16年 学内設置 (部局史4)	昭和29年3月21日 昭和17年理化学研究所規程 (同日制定)	(44頁12より)	
9 理学部理化学研究所→(廃止) 昭和27年4月1日 学内設置 (部局史4)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和20年3月 学内設置 (部局史4)	
10 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
11 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
12 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
13 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
14 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
15 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
16 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
17 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
18 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
19 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
20 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
21 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
22 理学部理化学研究所→(21頁12へ) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)		理学部理化学研究所→(廃止) 昭和22年4月1日 学内設置 (部局史2)	
23		24	25
24	第1章 組織	26	27
	第1節 大学組織の沿革	28	29
		30	31
		32	33
		34	35

写真は、第1章第1節 大学組織の沿革の一部

2008(平成20)年

- 5月
 - 1日 柳原敏昭准教授(文学研究科)資料調査
 - 2日 川合安教授(文学研究科)資料調査
 - 16日 刈田啓史郎元教授(歯学研究科)資料閲覧
 - 21日 百年史編纂室スタッフ会議開催
 - 22日 高橋章則准教授(文学研究科)資料調査
- 6月
 - 24日 中島康治教授(電気通信研究所)通史3の資料調査
 - 25日 小原豊志准教授(国際文化研究科)通史3の資料調査
 - 27日 吉田正志教授(法学研究科)通史3の資料調査
- 7月
 - 2日 百年史編纂室スタッフ会議開催
 - 8日 田村真理教授(加齢医学研究所)通史3の資料調査
 - 10日 石井光夫教授(高等教育開発推進センター)通史3の資料調査
 - 11日 川名洋准教授(経済学研究科)通史3の資料調査
 - 16日 大島徹准教授(国際文化研究科)通史3の資料調査
海老澤丕道名譽教授(工学研究科)通史3の資料調査
 - 18日 佐藤勢紀子教授(高等教育開発推進センター)通史3の資料調査
- 8月
 - 5日 百年史編纂室スタッフ会議開催
石井光夫教授(高等教育開発推進センター)通史3の資料調査
 - 28日 小原豊志准教授(国際文化研究科)通史3の資料調査
 - 29日 小原豊志准教授(国際文化研究科)通史3の資料調査
浦川肇教授(情報科学研究科)通史3の資料調査
水原克敏教授(教育学研究科)通史3の資料調査
- 9月
 - 3日 百年史編纂室スタッフ会議開催

- 熊本崇教授(文学研究科)通史3の資料調査
- 4日 石井光夫教授(高等教育開発推進センター)通史3の資料調査
羽田貴史教授(高等教育開発推進センター)通史3の資料調査
- 10日 小原豊志准教授(国際文化研究科)通史3の資料調査
羽田貴史教授(高等教育開発推進センター)通史3の資料調査
- 11日 羽田貴史教授(高等教育開発推進センター)通史3の資料調査
小原豊志准教授(国際文化研究科)通史3の資料調査
- 30日 小原豊志准教授(国際文化研究科)通史3の資料調査

- 10月
 - 9日 百年史編纂室スタッフ会議開催
 - 23日 小原豊志准教授(国際文化研究科)通史3の資料調査
- 11月
 - 10日 百年史編纂室スタッフ会議開催
 - 13日 大内孝教授(法学研究科)通史3の資料調査
- 12月
 - 4日 百年史編纂室スタッフ会議開催

2009(平成21)年

- 1月
 - 8日 百年史編纂室スタッフ会議開催
 - 16日 浦川肇教授(情報科学研究科)通史3の資料調査
 - 20日 高橋章則准教授(文学研究科)通史3の資料調査
通史2国内・外国・学内発送
 - 23日 大内孝教授(法学研究科)通史3の資料調査
- 2月
 - 4日 大島徹准教授(国際文化研究科)通史3の資料調査
 - 4日 百年史編纂室スタッフ会議開催
 - 23日 大内孝教授(法)通史3の資料調査
 - 24日 大内孝教授(法)通史3の資料調査
 - 27日 資料3国内・外国・学内発送

● 編集後記

平成21年度には、テーマ別に東北大学の百年史を叙述した「通史3」と、東北大学の諸相に関する資料や総長らによる式辞・告辞を収録した「資料2」、そして画像資料を収めた「資料4」が刊行予定です。今回の表紙に用いた米軍撮影による空中写真は、「資料4」編纂に伴う資料調査により発見されたものです。「資料4」には空中写真を含めて、未公開の画像史料を数多く収録する予定です。

東北大学百年史編纂室ニュース 第14号 発行日：2009年3月25日

編集・発行：東北大学百年史編纂室

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1

TEL 022-217-5042

FAX 022-217-4998

URL：http://hensan.archives.tohoku.ac.jp/

E-mail：hyakunen@bureau.tohoku.ac.jp